

## 卷頭言

# 『エッセンシャルワーカー』考

新型コロナ感染症が世に登場してから、もう一年半が過ぎました。そのうちに消えるだろうという楽観論は完全に打ち砕かれ、生活様式が一変し、自粛生活が世界の趨勢になったまま、一向に明るい兆しが見えません。ワクチンの登場があたかも救世主の到来のように思えましたが、遅々として進まない日本での接種事情、さらに変異株だの第4波だのという追い打ちがワクチン神話を吹き飛ばすのではないかとも危惧しています。

でも、人類のレジリエンス(復元力、さまざまな環境・状況に対しても適応し、生き延びる力)に期待する自分がいます。時間はかかるけど絶対なんとかなる。

コロナ禍が始まってから、多くの言葉が生まれましたが、その中でもエッセンシャルワーカーという言葉が私の脳裏にずっと濁るように漂っています。私たちが日常を維持していくために重要な役割を担っている必要不可欠な労働者という意味です。そもそも、ブルーカラー(作業着で業務にあたることが多い技能系や作業系の職種に就いている人々のこと)で、オフィス内で事務系の業務を行う人々を指すホワイトカラーの対語)と言わっていましたが、コロナ禍でも私たちの日常を支えるために、現場で働き続けなくてはならない彼らに感謝や敬意を示すために、「必要不可欠な」という意味を持つエッセンシャルワーカーという呼び名が使われるようになったのです。はっきりとした職種の定義はありませんが、大まかに捉えると、医療や介護、保育の従事者、運輸物流に携わる職種、小売店店員、公務員、金融、警察官や消防士、ライフラインに携わる事業者、第一次、第二次産業の従事者などが含まれると言われています。そのなかでも特に、コロナ患者と直接対峙する医療者が多くの場面で取り上げられ、恥ずかしいくらいの感謝と賛辞の言葉をいただく

ことがあります、目の前の患者を放つておけない医療者の持つ本能が黙々と仕事をさせているのは事実ですが、自己犠牲のうえにすごい事をやっているのだという意識はきっとないと思います。ただ淡々と。それが仕事だから。

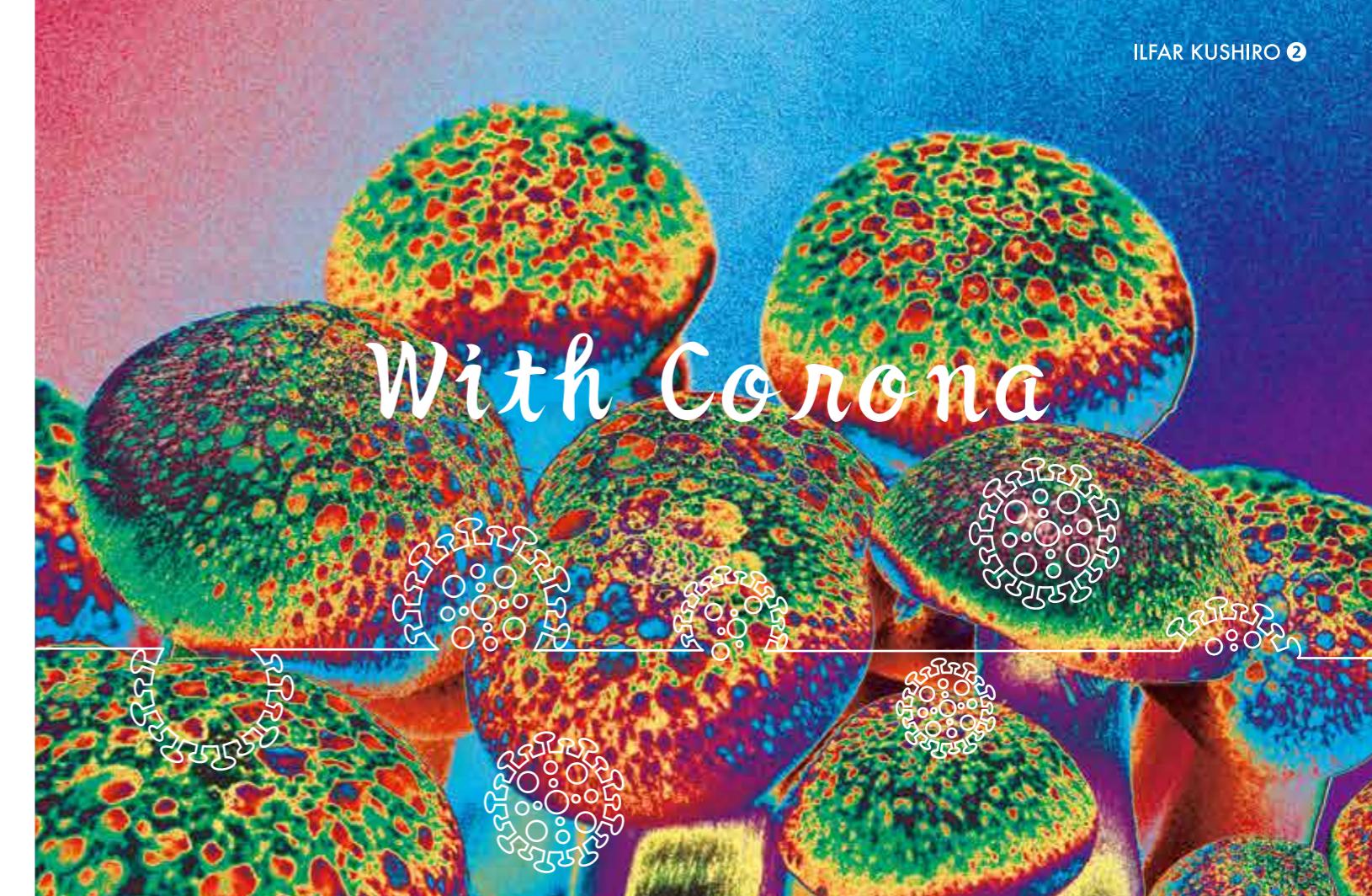
仕事に貴賤の別がないように、エッセンシャルワーカーが特別ではない。コロナ禍だからといってエッセンシャルワーカーが脚光を浴びる「必要」はないと思います。

エッセンシャルワークは新型コロナ感染という危険が加味された仕事に違いありませんが、今までと変わらず仕事が出来ている。むしろ、仕事がしたくても出来なくなったりた人たちにこそ光を当てるべきなのです。エッセンシャル(必要不可欠な)ワークの反対語がノンエッセンシャル(必須ではない)ワークであるはずはありません。どんな仕事も社会の中ではエッセンシャルなのです。

緊急事態宣言のなかで、要請に従って泣く泣く休業を決断した多くの飲食店やイベント業者、旅行業者や宿泊業者などなどのみなさんにこそ、よく耐えた、よく頑張ったと賛辞を送れるような社会こそが本当のレジリエンスを持つ社会なのだと思います。



宮城島拓人  
(イルファー釧路代表)



## 歯科医院の感染対策から思うこと

こうの歯科医院 河野昭彦  
(イルファー釧路副代表・監査)

昨年に新型コロナ感染が全国的に広がり始めた頃、当院でもいくつかの感染対策をはじめました。入口に手指消毒液を設置、受付に防御シールドを設置、全員の体温測定、スタッフのゴーグル着用が主な新規対策です。あまり大きな対策をとっていないように思われるかもしれません、当院を含めて釧路根室管内歯科医院を介して感染が拡大した事例はありません。全国・全国的にも同様らしいです。感染しやすそうに思われる診療科ですが、感染事例がほとんどないのは何故だと思いますか?

私たち医療機関では以前(25年前頃)からスタンダードプロトコール(標準予防策)を行う努力をしてきました。簡単に説明すると、医療従事者と全ての患者さんを感染症から守る対策を行いましょうということです。すくなくとも歯科医院においては、この日常的な感染予防対策が新型コロナ感染症にも有効であったと考えています。ですから安心して歯科治療を受けてください…という結論ではありません。大切なのは日常生活で、各々ができる対策を継続することだと考えます。

現在、「全国でコロナが収束しないのは政府の対策が不備だからだ。」という批判をマスメディアでよく耳にします。本当にそななのでしょうか。私たちはやるべきことをやり切っているでしょう

か、もう我慢の限界ですか?マスク・うがい・手洗い・検温・食事の仕方など、コロナだけでなく多くの感染症を予防できる対策です。ステイホームを含めて、いま一度自身の現状と心構えを見直しませんか。(私自身も最近、昨年に比べて気が緩みがちでした。)

私たち一人一人の努力でコロナを収束させるのだという気概を持って新しい日常を構築し、継続していく必要があると考えます。そしてイルファー釧路の通常活動を一日も早く再開させたいと願っています。

